



DBKだより

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2009 年 12 月 25 日 第 4 号

発行人：アルド・チプリアニ

皆さまの寛大なご協力に感謝

アルド・チプリアニ

二年前に発足した「発展途上国援助・ドンボスコ基金」運動も皆さまの温かいご協力に支えられ、六月の「DBK だより」の報告にありますように、マダガスカル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー、スーダン、東チモール等へ、合わせて一千万円以上を送金することができました。

小さなマツチでも闇の中で灯される
とき、心は明るく、温かくなります。
皆様の善意は、確実に多くの人々に希望と勇気を与えているのです。特に若者は次世代を築く世界の宝、希望です。



サレジオ会の
チャーベス
総長も

「手遅れになる前に、世界の未来で
ある青年を救う」と呼び
かけています。彼らの家庭を助け、教育の機会を与え、「誠実な市民、よいキリスト者」を育むことをこれからも主目的として、この運動を発展させていくつもりです。
善いクリスマスと新年を迎えられ
ますように、感謝のうちに、皆様の上に
神様の祝福をお祈り申し上げます。

クリスマスを祝う心

DBK 事務局長 河合 恒男

もうすぐクリスマス。キリストの誕生の祝日です。その祝い方がふさわしいか否かは別として、今や、キリスト者だけではなく、全世界の人々が祝うようになっております。なぜなのでしょう。キリストのどこにそのような魅力があるのでしょうか。

人類の歴史に大きな足跡を残した人物は数限りなくいます。ローマ帝国のシーザー、秦の始皇帝、日本では聖徳太子、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などなど……。彼らはそれぞれ時代を変え新しくしていくために貢献した人物です。しかし今や、彼らは皆、過去の人物となり、その誕生を祝う者はほとんどいないでしょう。

イエスには富も権勢もありませんでした。ローマ帝国に支配されたユダヤの一寒村で、名もない両親から生まれてきます。若い夫婦は臨月になつているといふのに身を寄せるための宿屋を見つけることもできません。かううじて羊飼いたちが避難所として使つていた家畜小屋で出産したのです。

このようにキリストの生涯は貧しさの中で始まり、悲惨な十字架の上で終わりました。いろいろな英雄たちのように目に見える形で人々の関心を引き寄せる派手なものは何一つありません。そんなイエスの誕生を、今や民族・国籍の違いを越え全世界の人々が祝うようになっていのです。

なぜかとその理由を尋ねられれば、答えは一つです。イエスの中には、全人類が求めながらも、完全に手に入ることができないものの、「愛」が生きていたからです。愛は私たち人間が何よりも求め、その中で生きたいと願っているものですが、エゴイストで欲望に満ちた私たちは愛を否定し、社会を不幸にし、時として一番身近な家族をも破壊してしまっているのです。愛は世界の不幸を解決していく力をもっています。愛がほしい、それが、人類の心からの願望です。クリスマスを祝う、それは私たちの愛への願望に促されていると言っても過言ではないでしょう。

私たちはクリスマスにイエスが降誕なさるのを待っています。でも正確に言うとは、イエスが私たちを待っているのださるのではないのでしょうか。ある人によると、人間が正気を保ち、健全に生きておられるのは、ある一人の人が彼を、彼女を待っているときだけだそうです。年に数万人の人が自死を選ぶのは、今日そして明日と彼らを選んでいる人がいるのに気づかないからだそうです。そう考えるなら愛にあふれたイエスの元に、異邦人の占星術師たちが、そして人々から受け入れてもらえなかった羊飼いたちがやって来たのがわかるような気がするのです。
新しい人間の価値を示したくれたイエスに出会ったとき、私たちはより人間らしく生きていくことができるのではないのでしょうか。

感謝の手紙

スーダン

カラカラのトン・ボスコ診療所

スーダンの首都カルトウム郊外では内戦を逃れてきた三百万人が避難生活を送っています。そのカラカラ地区に、サレジオ会による診療所兼研修センター（若者のための英語、コンピューター教室）が出来上がりました。教会を信用してくれる建設



仕上げ工事 診療所兼研修センターの外観



コンピューター教室

業者が、皆様の支援のおかげで資金に一定の用途が立ったところで着工し、完成させてくれました。

・カルトウム周辺の避難民と貧しいアラブ系の人々のため、質の良い医療。CMCのシスターたちがサレジオ会と一緒に働いています。施設が拡充され、より多くの患者に対応できるようにになりました。

・避難民の若者や地元の貧しい若者たちの自立を、宗教に関わらず支援する研修センターの教室、ホールなどが出来上がり、コンピューターや

プリンターも入りました。

日本からの支援（五百万円）のおかげもあり、多くの苦しむ人々のために診療所プロジェクトは動き始めました。皆様の寛大なお心に深く感謝申し上げます。残り約半分の支払い US\$145,985（約千三百万円）のために、引き続き支援をお願いできれば幸いです。よろしくお願い申し上げます。

「ボスコエイド」 マダテット神父

マダガスカル

アデリーヌさんより

DBK 恩人の皆様、ごあいさつ申し上げます。私の名前はアデリーヌです。四人の子どもの母親です。夫が一年前、交通事故で亡くなり、私たちは家を失いました。幸い、教会の神父様が部屋を提供してくれました。また仕事がなく途方に暮れていたとき、神父様が手作りの品物を作る仕事を世話してくれました。二歳の子どもが病気のときは薬を頂き、

入院費も払って頂きました。それは日本からの援助だと神父様から聞きました。皆様の寛大なお心に感謝します。子どもたちを育てていくために勇気を頂いています。皆様のために祈ります。本当にありがとうございます。



アデリーヌさんと子どもたち

agoray is dia any amin' ny Kristianina
any Tanany iha fanan' ny an' i Madagasikara
-Ia raha isany dia (fah) haka ny momba
-Ia fanan' ny haka any ara naha ny fana
hahana nanandrya avy any
Iyany Miasotra - Mahiranga

ペルーの母子家庭援助

ペルーではここ数年、温暖化の影響で雨量が増えています。リマ郊外のスラム街の、日干し煉瓦、ベニヤ板、ダンボール、ゴザ、ビニールなどで出来た家は雨や風に耐えられません。ここに住む人たちの中で定職を持てるのは限られた人たちです。建築現場での日雇い、路上での物売り、女性には金持ちの地域で家事の仕事を探して歩いています。朝早くから夜遅くまで働きますが、食べ物にも事欠く毎日ですので、子供達の教育、健康にまで手が届きません。

マイラさんと娘のテレサちゃん 建て直し前の家。屋根はビニールシート、壁はタンヤベニヤ板、エステラなどの継ぎはぎでした。



ドン・ボスコ基金から多額のご支援を頂き、木造の組み立て式の家を建てています。約500ドルで一軒一間の家が建てられます。カリタス会が運営している支援プログラムの子供達の親、親戚の方々が労働力を提供して完成させます。このような共同作業によって、お互いの繋がりと協力体制が出来てきています。

今回、母子家庭数家族の方々に皆様からの愛のプレゼントを届ける予定です。そのうちの一家族をご紹介します。

マイラさん（十八歳）は小学校卒業後、日中は母親と金持ちの地域に洗濯の仕事を探しに出かけ、夜間中学に通っていましたが、強姦されて妊娠し、未熟児を出産しました。体力もなく、心臓に小さな穴があり、入院を繰り返し栄養失調になっていたのです。ミルク、オムツなども支援しました。2人目の子供の出産を前にし、母子の健康を考え、住まいを整えました。

皆様方からの愛のプレゼントは、このような困難な状況にある家族を冬の寒さや雨風から守り、明日への勇気と希望を与えてくれています。新しい家で、皆様のために家族で感謝の祈りを捧げています。



また、働く婦人達を支援するための保育園を運営していますが、昼間でも麻薬中毒者やアルコール中毒者が園の周りに集まる中、子供達が安心して遊べる園庭が必要です。支援

マイラさん 新しい家の前で



金の一部は、ペルーの未来を担う子供達にも届く事になります。

幼子イエス様が、ドン・ドスコ基金の会員の皆様方の上に豊かな祝福をお与え下さいますよう、お祈り申し上げます。

イエスのカリタス修道女会

シスターテレジア 川端キヌエ

ソロモン諸島 テレレ



いつも私たち
を支えていただ

き、ありがとうございます。特に今回、飯田神父様とソロピアナ神父様を送っていただいて、私たちは日本管区の香りを味わうことができました。二人からDBKを通してご寄付のお金は衛生設備や公衆衛生のために使いたいと思います。テレレ小教区の域内での、公衆衛生のモデルの場になりたいと思います。恩人の方とDBKの皆さんに感謝申し上げます。今後もよろしく願います。

ラップ神父

ボリビア サンタクルス



支援の手をさし
のべてくださる
皆様

クリスマスと新年のおよろこびを

申し上げます。長年にわたる、皆様からの温かいご支援のおかげで、ボリビアの苦しむ兄弟たちが助けられていることに、心から感謝いたします。

日本では想像もできない、貧しく、困難な生活を送る人たちがたくさんいますが、毎日、人々の親切、温かい心、信仰心には驚かされます。特に「祝福してください」と願う人がなんと大勢いることでしょう。タクシーから降りるときには運転手が祝福を願い、中古の車、新車を買った、また車の祝福、そして、郵便局に手紙(P.O.Box)を受け取りに行くと従業員が集って祝福を願うといった具合です。

数日前のニュースで、インドの貧困地区で電気代が払えない家庭のローソクの火が原因で火災が発生したと伝えていました。先日、アメリカ人のロベルト主任神父から、重病人がいるので「病者の塗油」を授けに行ってほしいとの依頼があり、車で夜道を直行しました。お祈りの本を読むのに、ローソクの火にお世

話になりました。この家も電気代がないのです。翌日他界されました。

昨年「倉橋神父ボリビア青少年救援活動を支える会」が「DBK」に統合されましたが、引き続きボリビアのために振り込んでくださった援助金は、こちらのサレジオ管区長館財務に届き(今年四月二日)、従来どおり使用目的は「学校建設のため」「各ホームへ米穀供給」「月謝援助」「貧困少年たちへ日曜日の夜の食事とクリスマスにプレゼント配給」となっています。皆様に心から感謝いたします。

今年も、十二月二十五日から来年二月十七日まで一時帰国します。

連絡先は下記のとおりです。

電話での連絡は、携帯電話

(090-7716-4111)へ

FAX: 03-3353-7190

TEL: 03-3353-7190

東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ管区長館

倉橋輝信神父

DBKだより 第4号
2009 年 12 月 25 日

発行人: アルド・チブリアニ
発行所: サレジオ管区本部
〒160-0011
東京都新宿区若葉 1-22-12
tel: 03-3353-8355
fax: 03-3353-7190
dbk-gia@donboscojp.org

ご寄付くださる方は
以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号

00100-4-560725

加入者名

発展途上国援助・ドンボスコ基金

